

山口県における中学校美術の実態調査

—— 日本的な表現の学習について ——

山田 晃子*・福田 隆真

Research on the Actual Teaching of Art at Lower Secondary Schools in Yamaguchi Prefecture—based on the questionnaire on Japanese-style expression—

YAMADA Akiko* and FUKUDA Takamasa
(Received July 25, 2005)

キーワード：美術教育 日本的美術表現 鑑賞

はじめに

平成10年度の学習指導要領の改訂によって小学校図画工作科、中学校美術科の授業時間は削減された。また、平成元年度の改訂以来、学校教育では我が国の歴史や伝統文化に触れたり、アジア諸国の内容にも触れることが促されている。先の改訂から7年を経て、美術教育の実際を知るために、山口県内の中学校美術科を対象としてアンケート調査を行った。その内容は日本的な美術表現と鑑賞に関わることと現在の美術科の問題点についての自由記述である。本稿はこれらのアンケートをもとに山口県での中学校の美術教育の実際の一部と問題点について紹介する。

1 アンケート項目

山口県の中学校美術教員を対象に美術教育における日本的な表現の学習について以下の項目を質問、調査した。調査期間は平成17年3月から4月である。

1. 平成16年度では、美術の授業は年間何時間行われましたか。() 時間
2. 昨年度の年間計画において、日本的な表現の学習を年間で何時間程度充てられましたか。(表現と鑑賞を含む)
①1～2時間 ②3～4時間 ③5～7時間 ④8時間以上(時間) ⑤0時間
3. 日本的な表現の学習では、どのような教材でどのような内容を教えられましたか。具体的にお答えください。
4. 日本的な表現の学習を教えるにあたり、年間どのくらいの時間数を充てるべきとお考えですか。理由もお答えください。
①1～2時間 ②3～4時間 ③5～7時間 ④8時間以上(時間) ⑤0時間
5. 現在、先生が指導上大きな課題だと考えていること、苦勞されていることは何ですか。ご自由にお書きください。

*山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修

配布については、常勤で勤務している教員を対象に3学年分のアンケートを配布した。配布数は114で、そのうち1学年46、2学年42、3学年41の回答が得られ、回答数は平均約37パーセントである。

2 調査結果

以下にはアンケートの内容を述べる。学年ごとに美術の時間数を述べ、そのなかでの日本的な表現の学習にどの程度の時間で何を行っているかを述べる。日本的な表現の学習には一部分鑑賞の学習も含まれている。さらに全体の美術の授業時間数に対して、日本的な教材がどの程度占められ、具体的な内容としては何がなされているのかを述べる。

(1) 1 学年

1. 美術年間授業時間数（有効回答数41／無効及び無回答5） 平均：約42.6時間

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 時間数 | 26 | 32 | 33 | 37 | 38 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 49 | 50 |
| 回答数 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 | 1 | 3 | 4 | 2 | 15 | 1 | 2 | 1 | 1 |

2. 日本的な表現の学習に充てた授業時数（有効回答数42／無効及び無回答4）

平均時間：約2.0時間（全時間数の4.6%）

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
| 26 | 8 | 3 | 1 | 4 |

3. 日本的な表現の学習の内容（記述式の回答をもとに整理、分類した）

① 日本的文様や配色に関する内容

- ・デザインにおける日本的文様や配色について、制作の過程で必要に応じて行った
- ・教科書の内容を通して、構図や色の学習の時に教えた
- ・デザインの色の学習において、日本的な色や色名について触れた
- ・正六角形、正五角形、円から伝統文様を描き出す学習を行った
- ・伝統文様が印刷された画用紙にポスターカラーで色をつけ、カバーフィルムではさんでコースターを制作
- ・「色の広がり、色の魅力」で日本の伝統色についてふれた

② 浮世絵に関する内容

- ・副読本をもとに山口県の美術館案内のときに、萩焼と浮世絵について説明と作品鑑賞を行った
- ・鑑賞の授業で浮世絵を取り上げ、山口県立萩美術館についても紹介し、所蔵作品等について鑑賞させ説明を加えた
- ・「ジャポニズム」と題して、日本の浮世絵が西洋絵画に与えた影響や、浮世絵の簡単な歴史と作られ方を指導した
- ・アートカードを使用した鑑賞の学習で、浮世絵、大和絵について指導した
- ・デザインの授業で、デフォルメを教える時に浮世絵を見せた
- ・構図を教える時に浮世絵の作品を鑑賞した
- ・版画の授業で、木版の歴史として浮世絵版画について学習し、木版画の制作では彫刻刀等の道具の特徴、使い方などを学習した

- ・木版画の授業で浮世絵について学習した
- ・木版画の授業で、実技の際、浮世絵の多色木版の版を並べて紹介
- ・浮世絵の鑑賞
- ③水墨画に関する内容
 - ・水墨画で色紙にカニの絵を描かせた
- ④仏像や建築に関する内容
 - ・プロジェクターを使って、周防国分寺の仏像について鑑賞した
 - ・仏像にみられる様々な表現技法を学習した
- ⑤日本の伝統工芸に関する内容
 - ・「遊びと心の造形」という単元で、日本の伝統的な工芸のおもちゃを鑑賞し、おもちゃを作って絵をつけた
 - ・堆朱工芸キーホルダーの制作で、伝統工芸にふれた
 - ・木材工芸で薬研彫り、菱合い彫りを学習し、木材工芸作品のビデオ鑑賞を行った
 - ・木彫の授業で、欄間にみられる日本的な表現、透かし彫りの使い方、形態等を学習した
- ⑥書（カリグラフィー）に関する内容
 - ・墨で好きな文字、言葉を書かせた
- ⑦日本画に関する内容
 - ・資料集による美術鑑賞をし、日本画を模写させ、感想文を書かせた
- ⑧漫画的表現や構図などに関する内容
 - ・漫画表現と日本美術（鳥獣戯画図など）の関連
- ⑨山口県の作家、伝統文化に関する内容
 - ・香月泰男について（シベリアシリーズ、その時代、生き方、表現について）
 - ・須金和紙による和紙絵の作成や卒業証書の紙すきを行った
- ⑩西洋と日本の美術を比較した内容
 - ・日本文教出版教科書2.3上「4点のひまわり」で、速水御舟「向日葵」とゴッホ、シーレ、クリムトなどのひまわりを比較し、技法の違いや自分の好みなどを話し合った
 - ・西洋と日本の美術について、年表などをもとに年代を追って主な美術や工芸などの作品を知る鑑賞の学習をした
 - ・日本文教出版教科書2.3上「感じる心で」で、西洋画と日本画の違いについて、画材として割り箸ペンと墨汁について触れた
- ⑪その他
 - ・「日本」という国を外国の人に印象付けるためのデザイン学習（マーク化）
 - ・切り絵
 - ・棟方志功の鑑賞とからめて版表現を学習した
 - ・水彩画で風景を描く
 - ・鑑賞で触れる程度

4. 日本的な表現の学習に充てるべきと考える時間数（有効回答数44／無効及び無回答5）

| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| 8 | 14 | 13 | 4 | 0 |

<充てるべきと考える理由>

| | |
|---------|---|
| ① 1～2時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生で日本の美についての学習を行うため ・ 1年生なので教科書の内容に合わせている ・ 授業時数が少ないため特別枠としてはこれ以上取りにくい、制作の過程で折にふれて行うことは可能 |
| ② 3～4時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生はデザインの導入に多くの時間を充てるため時間を取りにくい ・ 指導内容の関連で日本的な表現を行う ・ 何をもって日本的な表現とするかという定義によって異なる ・ もっと授業時間数があればやってみたいが、他の制作にもっと時間を取りたい ・ 美術の時間内では、1、2時間で鑑賞や知識学習するのが限界であるため ・ 日本と西洋の伝統の違いや日本の美のよさを知り、学ぶべきである ・ 作品の特徴や時代背景などを含めた学習（鑑賞）を入れる必要があるため ・ 鑑賞授業も含めると必要と思われる |
| ③ 5～7時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自国の文化をしっかりと理解することは愛着を深め、さらに幅広い他国も含めた文化への関心につながるため ・ 日本文化を語ることでできる人材を育てるため ・ 日本文化独特の形や色の美に触れさせるため ・ 鑑賞から表現の技法へと応用して理解を深めるため ・ 授業の単元がだいたい5～6時間で一つというペースであるため ・ 1年生なら表現にもまだ時間を割くことができるため ・ 日本に伝わるものを受け継ぐということと、よさを発見させる ・ できれば日本的な美を鑑賞したうえで、作品制作に取り入れたいため |
| ④ 8時間以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現に取り組めば短時間ではできないため |
| ⑤ 0時間 | 記述なし |

5. 現在、美術において課題だと考えていること、苦勞されていること（記述式の回答を整理、分類した）

①授業時間数に関すること

- ・ 美術の授業時間がとても少ない
- ・ 授業時数の確保
- ・ 授業数が少ないため制作活動が表面的になりがちになること
- ・ 授業時間がないためアイデアを練る時間、制作する時間が足りない
- ・ 週1回50分の授業で制作できる作品には限りがあり、美術は表現を通して学ぶことが大事なのに時間が少ない

- ・週1時間程度の授業数であるが、導入や片付け反省を入れると、50分中、多くて30分くらいしか制作にあてられないため、せめて隔週ごとに2時間くらいあると幅広い内容ができるのではないかと思う
 - ・以前に比べて美術の時間が少なくなったため年間にできる作品があまりなく、ポスターの応募や作品展などが多数あり、応募の期日も限られているので充実した作品がじっくりと制作できない
 - ・授業時数が削減されたため、展覧会等に間に合わせようとする作品が希薄になる
 - ・作品制作が長期にわたるため、生徒の意欲の持続に影響があり、風景画では季節が変わると描きにくいなど、やりにくさがある
 - ・1年生で学ばせたい基礎的・基本的なことを学習するには時間をもっと必要である
 - ・授業数が少なくなったことで技能面も衰えているように思う
 - ・2時間連続でないため、昔のように凝った作品ができにくい
 - ・授業数が少なく、まとまった時間が取りにくい
 - ・学校選択という形で美術をとってもらっているので助かっている
- ②基礎的な知識や技術、道具の扱い方が身についていないこと
- ・以前に比べ、基礎的な技能が身についていない状態で中学校に入学してくるため、中学校1年の1学期の段階での指導が大変である
 - ・小学校の図画工作では造形遊びが主であるため、中学校に入って基礎的な知識や技法を学んだりする授業では「難しい」と集中できない生徒がたくさんおり、図工は自由で楽しいのに美術は難しいと苦手意識を持たせてしまっている
 - ・手を描いても漫画のような手になり、長さの割合などが捉えにくいようで「観察する力」がなくなってきていると感じる
 - ・表現するのに生徒の時間がかかりすぎる
 - ・基本知識でもある程度教えないと表現することが難しい
 - ・定規、コンパスなどの正しい使い方を知らないため、最も基本的な指導が必要となっている
 - ・ハサミ、カッター、絵の具などの基本的な道具も改めて教えなければならず、彫刻刀や糸鋸などの発展的な道具の扱い方や管理が難しく、自傷するだけでなく事件性に発展することもめずらしくない上に、使用できる道具が限られ表現の幅が広がらない
 - ・表現するのに生徒の時間がかかりすぎる
 - ・発想が貧困になってきた
- ③評価に関すること
- ・観点別評価をつけるための膨大な資料を集めなければならず、評価のための評価になり子どもとじっくり向き合う時間がない
 - ・観点別評価規準が言われているが、評価規準づくりが難しく、実技では生徒の活動の進度も一様でないので評価のタイムが難しい
- ④個人差
- ・子どもたちによって完成までにかかる時間が異なること
 - ・個人差が大きいため内容や時間など一人で多くの要求に対応していかなければならないこと
 - ・制作過程での個人の進度差

- ・表現するのに生徒の時間がかかりすぎる
- ・話ばかりしてつukらない生徒
- ⑤ 予算・経費、設備に関すること
 - ・経費削減のため思い切った教材が買えない
 - ・モチーフの少なさ
 - ・モダンアートを体験させようとする学校設備が進歩に追いつかない
 - ・極小規模校であるため思考、技術、美的センスの拡大が極めて困難であり、美術展に連れて行ってやりたいが予算面で無理がある
- ⑥ その他
 - ・教科書の内容や例が現実的でないこと
 - ・小中学校で統一した指導が必要である
 - ・美術だけでなく現代社会の問題が根底にある
- ⑦ 課題
 - ・授業時数に合わせ、短時間で完成でき、生徒も満足感が得られる題材の研究と開発
 - ・少ない授業時間の中でいかに効率よく技能を身につけさせるか
 - ・作業中心の中で、いかに美術的な背景や基本的な知識を伝えていくか
 - ・造形感覚を磨くことが思春期の生徒にとっていかに意義があるかを理解してもらうことであり、そのための題材の開発や指導法についての研究とともに、学校現場、保護者をはじめとした多くの人の理解を得られるよう伝えていくこと
 - ・深い部分での興味を持たせるためにはどうすればよいか
 - ・課題と自分とのかかわりをどのようにもたせるか
 - ・技術と思いとギャップをどのようにして埋めていくか
 - ・1年生は「うまくかきたい」と「うまくかけない」という意識が芽生えやすく、分かれやすい時期なので注意している
 - ・素材集め
 - ・鑑賞の力を身につけさせるために、どのように表現の力をからめて授業を組み立てられるか
 - ・三年間を見通した指導計画の見直し

(2) 2 学年

1. 美術年間授業時間数（有効回答数37／無効5） 平均：約33時間

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 時間数 | 26 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 |
| 回答数 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 5 | 2 | 3 | 10 | 1 | 5 | 1 | 2 |

2. 日本的な表現の学習に充てた授業時数（有効回答数38／無効及び無回答4）

平均：約3.7時間（11.2%）

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
| 11 | 12 | 7 | 5 | 3 |

3. 日本的な表現の学習の内容

① 日本的文様や配色に関する内容

- ・日本美術の歴史と日本的文様の特徴
 - ・日本的と感じられる作品を文様や家紋をヒントにしながら和風デザインの作品制作を行った
 - ・日本の伝統的な文様を学ばせたあとで、扇や扇子、風呂敷などのデザインを行った
 - ・円、正六角形、正五角形などの図形から伝統文様を描き、文様を組み合わせて新しい模様をデザインする
 - ・日本の伝統文様や伝統色を取り入れオリジナルのデザインを考え、平面作品（八つ切り）を作成した
- ②浮世絵に関する内容
- ・歌麿、北斎の浮世絵を一版多色木版画で制作
 - ・印象派と浮世絵についての関わりについて学習した
 - ・浮世絵の鑑賞
 - ・ジャポニズムの鑑賞
 - ・版画の授業で浮世絵について、西洋画（ゴッホ、ゴーギャンなど）と浮世絵の関係や制作過程と見方、代表的な絵師とエピソード、また山口県立萩美術館の所蔵品について主に鑑賞の学習を行った
 - ・版画の授業で浮世絵について、版画の形式、配色などを学習した
- ③水墨画に関する内容
- ・雪舟や江戸時代の墨絵を教材に鑑賞と実技を行った
 - ・水墨画でカエル、竹を描いた
- ④仏像や建築に関する内容
- ・修学旅行に向けて仏像の簡単な特徴について学習した
 - ・美術館で開催された「周防国分寺展」とからめて、周防国分寺の仏像について鑑賞した
 - ・鎌倉時代の建築の特徴について月輪寺を通して学習した
- ⑤日本の伝統工芸に関する内容
- ・「小物入れの制作」で切り出しの使い方を工夫させ、薬研彫りや菱合い彫りなどの伝統的な彫り方を身につけ、木彫を表現する学習を行った
 - ・江戸幾何学文様を中心とした木彫りオルゴールの制作
 - ・「工芸の用と美」で日本の伝統工芸品の鑑賞
- ⑥書（カリグラフィー）に関する内容
- ・好きな文字を描かせた
 - ・墨を使って文字をくずすなどの表現を行った
- ⑦日本画に関する内容
- 特に記述なし
- ⑧漫画的表現や構図などに関する内容
- ・「漫画で表す」で日本の漫画表現、戯画、絵巻物について学習し、絵巻物を制作した
- ⑨山口県の作家、伝統文化に関する内容
- ・山口市に関する美術史的なこと
 - ・香月泰男展
- ⑩西洋と日本の美術を比較した内容
- ・「西洋を魅了した浮世絵」で浮世絵と西洋の絵画を比較させながら、西洋の美術が浮世

絵から受けた影響を色彩と構図の面から捉えさせた

⑩その他、日本美術全般にわたる学習

- ・江戸から明治期の中から気に入った作品を資料集や教科書から選び、模写しながら作品のよさを味わう
- ・自作のプリントを使って原始から中世美術までを絵画、立体、建築にわたって行った
- ・切り絵の授業で、線の表現、線の強弱、線のもつ力、線の流れなどを理解させ表現に活かす内容を教えた
- ・日本美術のビデオ鑑賞
- ・「日本の美術」が教科書に取り上げられているので、教科書の内容に応じて教えた
- ・美術資料集から日本美術史を全般的に扱った
- ・花を題材にした作品から日本の美術の魅力を学習した

4. 日本的な表現の学習に充てるべきと考える時間数 (有効回答数39/無効及び無回答3)

| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| 4 | 13 | 14 | 7 | 1 |

<充てるべきと考える理由>

| | |
|---------|--|
| ① 1～2時間 | ・「日本的」にこだわることなく、過去現代の世界の様々な表現を生徒に提示し、その中から各生徒が自分に合った表現を取捨選択すればよいと思う |
| ② 3～4時間 | ・3～4時間で鑑賞的なものから自己表現的なものへとつながるような学習にしたい ・もっと時間をあてられたらいいとは思いますが、年間時間数が少ないためこれぐらい ・日本の伝統について学ぶことが必要だと思うし、その伝統で学んだことを自分の表現に生かすことも大切だと思う ・日本の美術文化に目を向けさせることが必要 |
| ③ 5～7時間 | ・授業の単元がだいたい5～6時間で一つというペースであるため ・できるだけ体験を交えて日本的な表現を学び、日本の文化を語れる人材を育てるため ・社会の授業で歴史について学び日本画等についての関心も出てくるので、1年生よりも時間数を増やしたり絵画でもデザインでもよいので日本的な表現を取り入れ学習するにはやはり5～7時間は必要となってくるため ・日本や西洋という区別でするつもりはない ・「表現」に取り組めば短時間ではできない |
| ④ 8時間以上 | ・2学年で日本の美について学習するため12時間を設定したい ・日本の伝統的な文化を大切にしたいと思う心を育てるため |
| ⑤ 0時間 | 記述なし |

5. 現在、美術において課題だと考えていること、苦勞されていること

1 学年と同様の回答がほとんどであったため、2学年のアンケートで述べられたその他意見を記載する。

- ・資料・教科書で見る作品よりも本物に勝るものはないため、美術科の鑑賞材料としてレンタル商品や生徒の行きやすい美術館省スペースがあると楽しい
- ・今年度、刃物を用いた授業を行ったが、少しの傷で手当してもらおうとする上に、どこを怪我しているのかわからないぐらいでも手当しなければならないので時間がかかりすぎ、また管理が大変であるため、来年度からは刃物を控えるつもりである
- ・2年生は自我が芽生え、他と比べて「はずかしい」という気持ちをもちやすく、人前で表現することをためらう生徒が増えるので注意している

(3) 3 学年

1. 美術年間授業時間数 (有効回答数35/無効及び無回答6) 平均: 約32.9時間

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 時間数 | 26 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 38 |
| 回答数 | 2 | 1 | 2 | 4 | 8 | 1 | 2 | 11 | 3 | 1 |

2. 日本的な表現の学習に充てた授業時数 (有効回答数41/無効及び無回答0)

平均: 約2.8時間 (8.5%)

| | | | | |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
| 18 | 9 | 3 | 5 | 6 |

3. 日本的な表現の学習の内容

① 日本的文様や配色に関する内容

記述なし

② 浮世絵に関する内容

- ・外国への影響など浮世絵の歴史とともに、浮世絵師の名前と代表作の鑑賞を資料集等を使って行った
- ・主に山口県立萩美術館所蔵作品について鑑賞した
- ・浮世絵の大胆な構図や平面的な色彩について

③ 水墨画に関する内容

- ・色紙に水墨画で表現させ、調墨、直筆、側筆、四君子の指導を行った
- ・動物を中心に描いた

④ 仏像や建築に関する内容

- ・鑑賞の授業で、仏像の種類、東大寺の伽藍、南大門について指導した
- ・関西への修学旅行前に、仏像、建築物などを中心に日本美術の鑑賞を行った
- ・法隆寺について
- ・世界遺産の中で法隆寺などの伝統建築物や白川郷等のことについて鑑賞を行った

⑤ 日本の伝統工芸に関する内容

- ・オルゴール箱の制作の際、木彫の彫り方の一つとして薬研彫りの方法を指導した
- ・伝統工芸品の鑑賞を行った
- ・卒業記念品制作として篆刻の指導をした

⑥書（カリグラフィー）に関する内容

- ・好きな言葉、文を描いた

⑦日本画に関すること

記述なし

⑧漫画的表現や構図などに関する内容

- ・「空間表現の不思議」の導入時に図法の指導を行う中で絵巻物などに見られる投影法について触れた
- ・漫画で修学旅行記を描かせたときに「鳥獣戯画」の絵、手塚治虫についてふれた

⑨山口県の作家、伝統文化に関する内容

- ・香月泰男展、周防国分寺展について
- ・香月泰男「シベリアシリーズ」の鑑賞で、県立美術館よりカードを借りて絵の七並べを行った

⑩西洋と日本の美術を比較した内容

- ・教科書「日本の美術」に関する内容を他の国々の美術との比較鑑賞で教えた

⑪その他、日本美術全般にわたる学習

- ・鑑賞で「アジアの美意識」という題材に取り組み、アジアの中の一つの国の美術として日本の仏教美術や工芸品等に触れた
- ・名画を模写する学習の中で日本画を選んだ生徒もあり、選んだ画家の生い立ちや時代背景、作風を学ぶことができた

4. 日本的な表現の学習に充てるべきと考える時間数（有効回答数38／無効及び無回答3）

| ① 1～2時間 | ② 3～4時間 | ③ 5～7時間 | ④ 8時間以上 | ⑤ 0時間 |
|---------|---------|---------|---------|-------|
| 8 | 12 | 13 | 6 | 0 |

<充てるべきと考える理由>

| | |
|---------|---|
| ① 1～2時間 | ・他の領域も教えるとなると時間が割けない |
| ② 3～4時間 | ・日本の伝統文化を身につけさせておきたい ・京都・大阪での修学旅行を深めるための事前学習として ・義務教育最後の一年間なので日本的な表現の学習も大切だし、西洋の作品についても幅広く知ってほしいので少ない時間数を考えるとやはり3～4時間がベストだと考えるから ・時間数が少なくとも印象強い作品や建築物など常識的に知っておいてほしいし、高校以降で美術に触れる機会が少ないとなればなおさら大切と思う |
| ③ 5～7時間 | ・京都や奈良での修学旅行に向けての事前学習としても必要 |
| ④ 8時間以上 | ・1、2年で少なかった分、3年で18時間前後に増やすようにしている |
| ⑤ 0時間 | 記述なし |

5. 現在、美術において課題だと考えていること、苦勞されていること
- ・ 3年生は能力差もついてきており、空間を捉えて表現できる生徒とできない生徒にわかれやすいため注意している
 - ・ 目の前に受験を控えていると、どうしても課題設定が縮小するように思う

3. 考察

前述までのアンケートの内容をもとに年間時間数、日本的な教材の内容、現在の美術科の問題点についてまとめを述べる。

(1) 年間授業時間数と日本的な表現の学習時間

学習指導要領で示されている年間授業時間数は1学年45時間、2学年、3学年は35時間であるのに対し、実際に行われた年間授業時間数は1学年で平均約42.6時間、2学年、3学年では平均約32.9時間しか実施されていないことがわかった。学習指導要領に示されている時間数よりも1学年では2.4時間、2、3学年では2.1時間ほど少ない授業時間数であり、ほとんどの学校で規定の時間数より2時間以上も授業数が確保できていない現状が明らかとなった。なかには、各学年を通じて26時間程度しか行われていない学校もある。

これら年間授業時数のうち日本的な表現の学習に充てた授業時数がどのぐらいの割合となるのかを調査したところ、1学年、3学年では①1～2時間という答えが最も多く、次いで②3～4時間という答えが多い。3学年だけでみれば、関西への修学旅行の事前学習や篆刻の学習を行う学校もあり④8時間以上という回答が5校あった。2学年に関しては①1～2時間と②3～4時間という回答がほぼ同数であり、③5～7時間は①、②に比べ減ってはいるがこの程度の時間は確保したとする回答が1学年、3学年に比べ多く、④8時間以上行ったという学校も5校あった。年間授業時数のうち日本的な表現の学習に充てている時間数は、1学年では約4.6パーセントの約2.0時間を、2学年では約11.2パーセントの約3.7時間を、3学年では約8.5パーセントの約2.8時間を充てていることがわかった。1学年に比べ2、3学年の時間数が多かった理由としては学習指導要領で第2、3学年の内容に日本の美術が取り上げられていることによるものと思われる。しかし、日本的な表現の学習を行った時間は0時間であったという回答もあり、1学年では約9パーセントの学校が、2学年では7パーセント、3学年では14パーセントもの学校が行っていない。全学年を平均すると約1割の学校が日本的な表現の学習を取り上げていないという現状もある。そして、各学年での年間授業時数のうち日本的な表現の学習に充てられた時間数が平均して約8.1パーセントとする割合も他分野との関連を考えると現時点では妥当であるかどうか疑問である。しかし、独立して日本の美術を教えるのではなく、さまざまな学習と関連してそのつど日本の美術を取り上げる場合も多くみられた。

(2) 日本的な表現の学習内容

日本的な表現の学習内容としては、題材や方法別に①日本的文様や配色に関する内容、②浮世絵に関する内容、③水墨画に関する内容、④日本の伝統工芸に関する内容、⑥書(カリグラフィー)に関する内容、⑦日本画に関する内容、⑧漫画的表現や構図などに関する内容、⑨山口県の作家、伝統文化に関する内容、⑩西洋と日本の美術を比較した内容、⑪その他、日本美術全般に関する内容の11項目に大きく分類することができた。全学年を

通じて、日本的な表現の学習内容として最も多く取り上げられていたのは②浮世絵に関する内容であり、木版画制作の関連で、浮世絵の構図やデフォルメ、西洋美術への影響などともに学習させることが多い。

次に多かった内容としては、①日本的文様や配色に関する内容であり、日本的な文様や色を利用したデザイン作品を制作させる学習が多い。また、⑤日本の伝統工芸に関する内容でも、木彫による制作を行うときに葉研彫り、菱合い彫りを学習したとする例もある。⑧漫画的表現に関する内容も多く、鳥獣戯画を鑑賞させる例がいくつかあった。さらに、⑨山口県の作家、伝統工芸に関する内容としては、香月泰男や周防国分寺の鑑賞を行ったとしている。学年別にみると、1学年、2学年では、日本的文様や色によるデザイン、浮世絵の鑑賞と木版画制作などが多く、3学年で木彫や篆刻といった発展的な技法や道具を用いることが多い。日本的な表現の学習においても比較的容易なものから発展的なものへと構成されている。さらに、関西への修学旅行を行う学校が多く、3学年ではその事前学習として仏像や仏教建築などを学習させ、日本の美術に触れることの一環としている。昨年山口大学で行った平成16年度大学1年生を対象としたアンケートでは、「日本の美術といえば何を思い浮かべますか」という質問に対し、浮世絵をあげる学生がほとんどであった。これらは小学校、中学校で日本の美術として浮世絵を取り上げる授業内容が影響しているものと思われる。

そこで、実際に行われた授業時数とは関係なく、これら日本的な表現の学習にどのくらいの授業数を充てるべきと考えているのかを調査したところ、1学年では②3～4時間、2、3学年では②と③5～7時間の回答がほぼ同数で多かった。1学年、3学年では実際に行われた授業数が平均2.0～2.8時間であるのに対し、それよりも比較的ゆめの時間を設定したいと考えていることがわかる。理由としてはそれぞれであり、日本と西洋の伝統の違いや日本のよさを知り、学ぶべきであるという回答や、もっと時間を充てられたらいいとは思いますが、年間時間数が少ないためこれぐらいという回答もあれば、①1～2時間と設定した理由として2年生で日本の美についての学習を行うため1学年ではこの程度でよいという回答もあった。③5～6時間を設定したいとする回答理由には、日本文化を語ることでできる人材を育成したいと考えているためという、できることならばこの程度の時間は確保していきたいと考えていることが伺える。

(3) 教師が考える美術教育における課題

最後に、現在、美術において課題だと考えていることについて自由に書いてもらったところ、最も多かったことに①授業時間に関することがあげられている。授業時間が少なくなつたため年間にできる作品があまりなく、期日も限られているので充実した作品がじつくりと制作できないというような回答が多かった。また、基礎的・基本的なことを学習するためにはもっと時間が必要であるということや、週1時間で作品づくりを行うとどうしても長期にわたる制作となり、生徒の意欲の持続に影響し、やりにくいといった声もあった。

そして、次に多かった回答としては②基礎的な知識や技術、道具の扱い方が身につけていないことをあげている。定規、コンパスなどの正しい使い方を知らないため最も基本的な指導が必要となり、制作の時間がとられてしまうことや、中学校入学時点ですでに以前に比べて基礎的な技能が身につけていない、発想が貧困になってきたと感じる教師もいる。

また、小学校の図画工作では造形遊びが主であるため、中学校に入って基礎的な知識や技法を学んだりする授業では難しいと感じ、集中できない生徒がたくさんでて、図工は自由で楽しいのに美術は難しいと苦手意識を持たせてしまっているといった声もある。これらは、授業時間数削減による美術における学力低下であるといえる。

さらに、③評価に関することにも疑問を感じている教師が多々おり、観点別評価をつけるための膨大な資料を集めなければならず評価のための評価になり、子どもとじっくり向き合う時間がない、観点別評価規準が言われているが評価規準づくりが難しく、実技では生徒の活動の進捗も一様でないので評価のタイミングが難しいという意見もあった。他にも、生徒の個人差への対応を課題とする声や、予算・設備の関係で教材が買えないといった回答もあった。

平成元年の学習指導要領の改訂により、我が国の歴史や伝統文化に触れることが促され、美術科においても学習の内容に日本の美術が含まれることとなった。改訂後、中学校美術教育においても日本の美術、表現に関する学習が取り上げられることとなったが、実際それに充てられた時間数は年間授業時数の約1割にも満たない。このことから日本的な表現に関する学習が十分であるとは言い難い。しかし、教員が最も問題点と考えることが授業時間数の少なさであることから、日本的な表現の学習にだけ時間数を割いていないのではなく、すべての美術分野において時間数が足りていないというのが現状であろう。以前に比べ美術教師が子どもたちの知識、技能が低下していると感じるのであれば、授業時数削減によるものと考えなければならない。

こうした状況の改善策のひとつとして考えられることは、美術科以外の時間の活用である。実際に実施されている例もあるが、総合的な学習の時間や見学旅行において日本的な美術表現や鑑賞に関わる内容を採り入れ、調べ学習や発表を行うことである。また、日常環境の整備も工夫することができる。地域の美術作品や工芸作品を展示解説するような場の設置もその例である。さらには文化祭、学習発表会の活用も可能であろう。教科の時間数が削減された現在、学校教育全体での理解と工夫が必要となっている。

付記

本稿を作成するにあたり、山口県下の中学校美術の先生方にお世話になりました。年度末のご多忙な時期にアンケート調査にご協力をいただいたこと感謝しております。

参考文献

- ・原田万智子 「美術教育における視覚言語と日本的表現に関する一考察」 山口大学大学院教育学研究科修士論文 2000
- ・福田隆眞・原田万智子 「中学生の美術教育の実態と展望」 山口大学教育学部研究論叢第44巻第3部 1994
- ・中瀬律久 「中学校の美術教育課程改善のためのアンケート全国調査結果より 美術子どもと先生の願い」 日本文教出版株式会社 1996
- ・佐藤学 「学力を問い直すー学びのキュラムへー」 岩波ブックレットNo.548 2001